

中国語時事作文について ——日本語との対照から見た特徴・誤用—— (I)

藤田昌志

分析写作汉语时事作文的特征与误用情况
——与日语相对照对其特征和误用进行分析——

FUJITA Masashi

《提纲》

本文针对母语为日语的汉语学习者，分析其写作汉语时事作文的特征与误用情况。本文的独创性在于与日语相对照对其特征和误用进行分析。一直以来，与一般的汉语作文相比，汉语时事作文难度更大，大学课程等也没有教授与此相关的内容。今后，在客观的分析研究的基础上，应开设汉语时事作文的课程。若本文可以成为其基础研究之一，实乃荣幸之至。本文采用的用例和误用例来自《周刊中国语世界》（日中通信社）〈日文中译讲座〉的No. 28（1998. 10. 15日号）～No. 319（2004. 9. 30日号）。（用例等最后括号内的数字表示刊登的No.）本文分为两部分进行分析和论述：2. 与日语相对照看汉语时事作文的特征，3. 与日语相对照看汉语时事作文的误用。

1. 序

本稿は日本語を母語とする中国語学習者の中国語時事作文の特徴を明らかにし、誤用について分析するものである。日本語との対照からその特徴を明らかにし、誤用について分析するところに本稿のオリジナリティーが存在する。従来、中国語時事作文は一般の中国語作文に比べて難しいこともあり、大学の授業等ではあまり行われてこなかった。今後は客観的分析、研究のもとに中国語時事作文の授業も行うべきであろう。本稿がその基礎研究の一つになれば幸いである。

本稿で扱った用例、誤用例は、『週刊中国語世界』（日中通信社）「日文中訳講座」のNo. 28（1998. 10. 15日号）～No. 319（2004. 9. 30日号）によった。（用例等の最後の（ ）付き数字は掲載No.を表す。）全体を2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、と3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、に分け分析、論述することにする。

まず、2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、から始めることにする。

2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について

全体は2.1「転換」関係の特徴、2.2「加訳」関係の特徴、2.3「減訳」関係の特徴、2.4その他の

特徴、に分かれる¹⁾。

2.1 「転換」関係の特徴

2.1.1 「名詞(日)→動詞(中)」の「転換」

「転換」関係の特徴として、まず最初に挙げられるのは名詞(日)を動詞(中)に転換する例である。たとえば次のような例がある。

- (1) 学校嫌いを理由に長期欠席する不登校の小中学生(後略)(20)
→借口不喜欢学校, 长期缺课, 不去学校的小学, 初中生, ~

「学校嫌い」は“不喜欢学校”に「不登校」は“不去学校”と訳されている。日本語の名詞(N)が動詞(V)として、また動名詞的に訳されていると言える。

次のような例も同様に名詞(N)を動詞(V)を使った形に訳している。「経済の活性化」→“增强经济的活力”(34)、「失業者の吸収」→“吸收失业人员”(34)、「肉親捜し」→“寻找亲人”(38)、「アフリカ4カ国公式訪問」→“正式访问非洲四国”(45)、「アフリカなど発展途上にある第三世界諸国との友好関係の発展」→“和非洲等发展中的第三世界国家加深友好关系”(45)、「中国からアフリカ諸国への経済援助」→“中国向非洲国家提供经济援助”(45)、「米軍横田基地の返還」→“归还横田美国军事基地”(53)、「空路」→“坐飞机”(57)、「省エネ」→“节约能源”(58)、「中国訪問」→“访问中国”(59)、「企業の相継ぐ採用抑制」→“企业继续控制雇用”(87)、「内政干渉」→“干涉内政”(93)、「(パンダの)生息地域の割り出し」→“确定熊猫栖息地域”(107)。もっとも名詞(N)を意味的に「形容詞(Adj.)の否定形に転換して「改革の難航」→“改革进展并不顺利”(47)とする場合もある。また「外国人の立ち入り(を禁止する)」の場合は“(一直禁止)外国人进入”(33)となり、主語である“外国人”が“进入”の前に来る。

2.1.2 「受身(日)→非受身(中)」への「転換」

次の「転換」関係の特徴は「受身(日)→非受身(中)」という型が存在することである。

- (2) 地球の平均気温は19世紀末以降の100年間で0.3~0.6度上昇したと推定されている。原因は、大気中の二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの濃度上昇だとみられている。(29)
→地球的平均气温在19世纪以后的100年之间, 估计上升0.3到0.6度。人们认为气温上升的原因主要是大气层里含有的二氧化碳和沼气等有暖室效果的气体的浓度的上升。

動作主中心表現を好む中国語では「家族計画国際協力事業団の加藤シヅエ会長（101歳）に、中国から、第3回中華人口賞が贈られた。」→“中国政府将第3届中华人口奖授与家庭计划国际协力财团的加藤静江会长（101岁）。”（36）、「小泉首相は朱首相から「～」と言われていた。」→“朱总理也向小泉首相表示说：“～。””（181）と表現する。

受身形（日）が名詞を修飾する場合も次のように非受身（中）表現となることがある。「最新式の音響設備や照明が増設された広場」→“增设了最新式音响和照明设备的广场”（68）、「中国四川省のパンダ保護研究センターで飼育されているパンダの「一号」」→“在中国四川省的熊猫保护研究中心里饲养的熊猫“一号””（76）。日本語は間接的表現を好むが中国語は直接的表現を好むということであろうか。

同じ日本語の受身でも（36）や（181）では中国語で動作主中心表現となり、（68）や（76）では中国語で直接的表現（意識的な非受身表現）となっている。（36）や（181）のような動作主中心表現への転換としては、他に「気象庁から、九州から関東地方にかけてのサクラの開花予想が発表された。」→“气象厅发表了从九州到关东地方樱花开花的预报”（52）、「7月12日に明らかにされた党・政府指導部人事綱領によると、～」→“据七月十二日，中国发表的一项党和政府领导部的人事纲领显示。～”（120）、「若い女性のほか、子供の運動会などの時などに、ビデオカメラやデジタルカメラ、交換用電池を入れるのに便利と、30～40代の男性にも重宝がられている。」→“除了年轻的女性以外，连30、40岁的男性也非常爱用，～”（191）。という例がある。（120）では、日本語にはない動作主“中国”が中国語訳で付加されている。（68）や（76）のような直接的表現、意識的な非受身表現となっている転換としては、他に「12月20日午前0時（日本時間同1時）、マカオが442年ぶりにポルトガルから中国に返還された。」→“12月20日凌晨零时（北京时间1点），澳门摆脱葡萄牙的统治回归中国。”（92）がある。（また、混合型もある。「現在、中国で乗用車を購入できるのは、外資系企業の管理職、経営者など一部に限られている。」→“目前在中国只有外资企业的管理人员或私人企业的业主等一小部分人才能购买轿车。”（148）。（148）の中国語では倒置された主語（日）を転換して述部とし、動作主を主語とし意識的な非受身表現としている。動作主中心表現と直接的表現（意識的な非受身表現）の混合型である。もっとも単なる動作主中心表現ではないので、その他に分類してもいいであろう。）

2.1.3 語順の「転換」

更に「転換」関係の特徴として第三に、語順の転換が挙げられる。

(3) 江沢民共産党総書記（166）

→中国共产党总书记江泽民

(4) 史上最悪の水準に膨らんでいる中国の財政赤字が～ (39)

→中国的財政赤字膨脹到历史最坏的程度, ～

(3) はABをBAの語順とする型である。「国際ビデオアート展「秋葉原TV-03」→““秋叶原TV-03”的国际录像艺术展”(201)も“的”が入っているが基本的には同じ型であろう。「人口増加率は戦後最低の1.1%だった。」→“人口增长率仅为1.1%,创造了战后最低的记录。”(184)も文レベルであるが、AB→BA型であろう。

(4) は被修飾語「財政赤字」を中国語で主語とし、修飾部分(日)を「動詞+補語」(中)にしたものである。日本語表現は英語の翻訳の影響もあり非修飾部分が一定程度、長くても許容されるが、中国語では許容範囲が狭いことからこうした「主語名詞+動詞+補語」等となるのであろう。「修飾語+被修飾語」(日)は他に次のような語順(中)に転換される例が見られた。「5月8日と10日新潟県の佐渡トキ保護センターで生まれた2羽のトキのひなの名前が～」→“5月8日和10日两只小朱鹭在新泻县佐渡朱鹭保护中心出生,～”(119)、「共産党、政府幹部の汚職が相次ぐ中国で、～」→“现在在中国,共产党和政府干部的贪污接连发生。”(127)、「北京原人の頭骨化石発見で知られ、世界文化遺産にも登録されている北京郊外の周口店遺跡が、～」→“北京郊外的周口店遗迹以发现“北京原人”的头盖骨化石而闻名,并被登记列入为世界文化遗产名单。”(159)。それぞれ被修飾語部分の「2羽のトキのひな」(119)や「北京郊外の周口店遺跡」(159)が中国語訳では主語となり、修飾部分の動詞である「生まれる」(119)、「相次ぐ」(127)、「知られる(=有名である)」「登録されている」

(159)が中国語では述部の動詞となっている。中国語が長い修飾語を嫌うために生じた語順の転換の例であろう。(4)のような語順の転換は厳密には品詞の転換とも言えるものであるが、次のような転換は動詞「成功する」を副詞(中)に転換したものである。「中国は11月21日、甘肅省から打ち上げた無人宇宙船の回収に成功した。」→“十一月二十一日中国成功地回收了从甘肃省发射的无人宇宙飞船”(88)、「広東省深圳市の医療センターがこのほど、魚の角膜を男性の左目に移植する手術に成功したと、8月8日付の香港各紙が伝えた。」→“8月8日香港各报报道,广东省深圳市医疗中心成功地把鱼的角膜移植到一位男性左眼睛,～”(125)。逆に中文日訳の際には、以前はこうした“成功地”を「成功裡に」(日)と直訳風に訳した(相浦^{たかし} 泉先生による)と聞いたことがある。

次のような語順の転換も修飾関係の転換と言ってもよいものであるが、形容詞が修飾する形(中)になっているのが今までのものとはちがう。「被害が深刻なのは、山東省を中心とした北部の一带。」→“严重的受灾地区主要以山东省为主的华北地区。”(165)直訳すれば「深刻な被害(地区)」となる中国語に訳されている。

以上の「転換」関係の特徴には「非使役(日)→使役(中)」が含まれていないが、このことについては3.日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、で述べることにする。また、「非受身(日)→受身(中)」は非常に少なく、「こうした活動は労使協調による育児支援の試みとして

注目を集めそうだ。」→“这项活动作为劳资双方共同育儿的尝试，将会受到众人注目。”(232) といった例もあるにはあるが、「轉換」の型と言えるほどの数ではない。

2.2 「加訳」関係の特徴

日本語との対照から中国語時事作文を見た場合、「加訳」関係の特徴を表す例としては次のようなものがある。

(5) 中国の密輸品は、麻薬や銃ばかりではなく自動車、パソコン、家電、フィルムなどおよそ高関税を課している商品では例外なく流通しており、～(44)

→中国的走私品不仅有毒品和枪械，也还有汽车、个人电脑、家电、胶卷等。这些被课以高关税的商品几乎无一例外地在市场上流通。

(5)は“这些”という「指示代詞+不定量詞」が加訳された例があるが、“这(那)、这么、这儿、这个”が加訳される場合もあるし、“那就”“那么～就”といった指示代詞と副詞が加訳される場合もある²⁾。「中国政府は公務員の給与を30%近くアップさせ、低迷している内需の拡大につなげることを計画している。」→“中国政府计划把公务员的工资提高近百分之三十，由此扩大国内需求。”(46)という“由此”が加訳されたり“因比”が加訳されることもある。また「被災地ではトルコ各地の救援隊のほか、日本を含む各国の救援隊による救援活動が続けられている。」→“在灾区，除了来自土耳其各地的救援队以外，包括日本在内的各国救援队，都在继续进行救援活动。”(75)のように“～在内”が“包括”と共起関係にあることから加訳される場合もある。

この他、「数詞“一”+量詞」の加訳や「具体性」の加訳、より言語習慣上の理由が色濃い加訳などがある³⁾。日本語を中国語に翻訳する際の一般的特徴であり、当然、中国語時事作文の場合にもあてはまることである。

次に、「減訳」関係の特徴に移ることにする。

2.3 「減訳」関係の特徴

「減訳」関係の特徴を表す例としては次のようなものがある。

(6) 12年にわたり台湾の総統を務めてきた李登輝総統が3月24日、国民党の臨時中央委員会で党主席の辞任を表明した。(105)

→担任台湾总统12年的李登辉，3月24日在国民党临时中央委员会上辞去党主席一职。

(7) 10人以上も愛人がいたフィリピンのエストラダ大統領は、「クリントン氏の女性の何人

かは、文句を言っているが、私の場合、だれも不平をいわない」と語った。(32)

→有十多个女情人的菲律宾埃斯特拉达总统说，“克林顿的女情人都对他不满意，瞧我！没有一个抱怨我的。”

(6) の「～にわたり」はなくても問題はない表現である。「キャンペーンは6月末まで続けられ、テレビなどで市民に情報提供を呼びかけている。」→“该运动将继续到6月底，当局在电视上呼吁市民提供有关情报。”(106)、「成被告は1993年から95年にかけて、職権を乱用し、総額4198万元の不正な所得を得ていた。」→“成克杰在1993年至1995年利用其职权，谋取贿赂达4198万元。”(123) における(106)の「(テレビ) など」や(123)の「(95年) にかけて」もなくても問題はない表現である((123)の「(95年) にかけて」は粗くは「～まで」で代替できる)。間接的表現を好む日本語の特徴が現れたものと考えられるが中国語では減訳されて表現されている。

(7) の「10人以上も」の「も」は「世間の常識」より多いことを表す取り立て詞「も」であるが、減訳されている。「でも」、「ぐらい」、「なんか」といった取り立て詞や比況を表す「ようだ」、様態を表す「そうだ」といった表現も減訳されることがある⁴⁾。

2.1 「転換」関係の特徴で言及した(68)や(76)のような日本語で受身表現であるものが、中国語で直接的表現(意識的な非受身表現)になる場合は、減訳関係の特徴に分類してもよいものである。「中国の対日宣伝紙「中国画報」と「北京週報」の2誌(共に日本語版)が、今年限りで廃刊されることになった。」→“中国对日宣传的“中国画报”和“北京周报”杂志都是日语版，今年将停刊。”(136)も同じ種類のものである。

日本語表現より中国語表現の方が詳しく密であるときは言葉を付加したりしなければならぬ(加訳)し、逆に日本語表現の方が詳しく密で、間接的表現である場合は言葉を削ったりしなければならない(減訳)。日本語表現と中国語表現を加減の関係で考えたとき、指示代詞、「数詞“一”+量詞」、「具体性」などが中国語では日本語より、より詳しく表現され、取り立て詞「も」、「でも」、「ぐらい」、「なんか」、比況を表す「ようだ」、様態を表す「そうだ」などは日本語では中国語より詳しく表現されるということがある。時事中国語作文の際にもこうしたことに注意を払わなければならない。

2.4 その他の特徴

その他の中国語時事作文の特徴として、日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二(または多)の関係にある場合の特徴がある。主として語彙的な面での対応における特徴である。

(8) 旅行会社では年末年始の旅行シーズンを前に格安ツアーを用意したり、ホームページで安全をPRしているが、～(187)

→各家旅行社虽然在新年前后的这段旅游旺季，准备了特别便宜的团体旅游，还在网页上宣传了安全性，～

(8) の「旅行シーズン」は旅行会社の立場から言えば「旅游旺季」であり、観光客の立場からすれば「旅游季节」である。この場合、旅行会社の立場からの表現となっている。「(サッカー等の)熱戦を楽しむ」(211)は抽象的なもの(ex. “生活”、“人生”)を目的語とする“享受”ではなく、具体的なもの(ex. “酣战”)を目的語とする“欣赏”を使用し、“欣赏酣战”としなければならない。この種の特徴は多くの誤用が見られるので、次の誤用のところで詳しく述べることにする。

3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について

中国語時事作文の誤用について、3.1日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二(または多)の関係にある場合の誤用、3.2「転換」関係の誤用、3.3「加訳」関係の誤用、3.4「減訳」関係の誤用、3.5その他の誤用、の5つに分類して述べることにする。

3.1 日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二(または多)の関係にある場合の誤用

この種類の誤用は3.1.1意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用、3.1.2口語/文章語の違いによる誤用、3.1.3動詞+目的語の組み合わせ(“搭配”)の違いによる誤用、3.1.4その他の誤用、に分類される。以下、一つ一つ見ていくことにする。

3.1.1 意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用

この誤用には次のような例がある。

(9) 仙台市は19日、195の市立小中学校、養護学校、幼稚園すべての敷地内を来年度から全面禁煙にすると発表した。(234)

19日，仙台市发表((变)宣布)从明年开始在市立195所小学、初中、残疾人学校和幼儿园里执行全面禁烟。(注：A((变)B)はAをBに変えることを意味する。)

(10) 2003年4月7日は、手塚治虫さんの人気漫画「鉄腕アトム」の主人公アトムの誕生日。(253)
2003年4月7日是手塚治虫所著备受欢迎的漫画《铁臂阿童木》中主人公阿童木的生日((变)诞辰)。

(11) (彼らは)氷点下30度の室内でバナナが凍っている様子を見て、驚きの声を上げていた。(277)

他们在零下30度的室内看了香蕉冻着的样子，发出了惊异((变)惊讶)的声音。

(9) は動詞「発表する」を“发表”とそのまま中国語にした誤用例である。「発表する」(日)は中国語の“宣布”(罪状・法律などを)正式に発表する)、“发表”(意見・声明・談話などを)発表する)、“公布”(政府の法律・命令・通達や諸団体の通知を一般に知らせるために)公布する、発表する)、“表示”(言葉・行動で思想・感情・態度・意見・決心などを)表明する、表す)⁵⁾などと対応するが(9)の場合は仙台市の正式な発表であるから“宣布”が適している。“发表”では意見・声明の公表に過ぎない。こうした動詞の意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用として他には次のようなものがある。「(外国人)の教員を招く」→“招聘((変)邀请)”(注:“聘”は雇用するという意味があるので不適)(226)、「(台風による)行方不明」→“失踪((変)不落不明)”。(注:“失踪”は「自主的に行方をくまらずニュアンスがある」⁶⁾ので不適)(228)、「腐っていた(ズワイガニ)」→“腐败的((変)腐烂的)红堪察加拟石蟹”(注:“腐败”は政治、制度などが混乱、墮落していることを表し、“腐烂”は食物が腐るときに用いる。)(265)、「(タマネギが豊作で収穫されずに畑に)放置された」→“被~放置((変)被~丢弃)”。(注:“放置”はただ「置く」だけで「放って置く、捨て置く」という意味はない。)(267)、「(花火大会が)行われる」→“实行((変)举行)(焰火大会)”。(注:計画などを“实行”し、花火大会などの活動を“举行”する。)(317)等。

(10) は名詞の意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用である。キャラクターや偉人の誕生日のときは“诞辰”を使用した方がいい。「家族の問いかけに(脳卒中の病人が)応じる」は“回答家族((変)家人)的询问。”(298)である(注:血縁関係を基本に形成された社会組織は“家族”だが、日本語の「家族」に相当するのは“家人”)し、「(警告音が鳴る)しくみ」は“(发出警告声的)构造((変)设备)”(301)(注:「設備、装置」の意味のしくみは“设备”で表すのが適当。)である。「姿」→“外形((変)神态)”(305)、「光景」→“光景((変)景象)”(308)、「(暫定的停止を表す)中断」→“断绝((変)中断)”(注:“断绝”は終わってしまい、再開しないという意味を表す)(311)などの場合にも、どのような名詞を使うかよく考える必要がある。時事中国語作文で使用される基本語彙の意味、用法について今後、他の語との関係で明らかにして提示していく必要がある。

(11) は形容詞(中)の意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用である。“惊异”は「驚きの目をみはる、意外に思う」という意味で、“惊讶”は「(不思議なことを見て)あっと驚く、一瞬わが目を疑う」⁷⁾という意味であるが、一般的な「驚く」という意味では“惊讶”を多く用いる。この他、形容詞(中)の誤用としては以下のようなものがあった。「結婚式を行う環境が整っている~」→“举行结婚典礼的环境整齐((変)齐备的)”(279)(注:“整齐”は「きちんとしている、整っている」。ここでは「すべて揃っている」という意味の“齐备”を使う方がいい。)、〇〇国なんかろくな裁判もないし、~→“〇〇那个国家没有正经((変)正常)审判,~”(304)(注:“正经”は人間の性質を形容するのに多く用いられ、やや否定的な意味を持っている。意味が中性的な“正常”を使う方がいい。)

副詞(中)の意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用もある。「(ホテルが)盛んに発光する」→“(萤火虫)积极地((变)活跃地)发光”(266)(注:“积极”は自ら進んで行動すること。“活跃”は「生命等が活発である」ことを表す。)、「道内は23日、大雪になり、新千歳空港で欠航が相次ぐなど交通機関の乱れが続いた。」→“北海道23日下大了雪,继续((变)连续)发生新千歳机场相继停班等,交通混乱。”(295)(注:“继续”は絶えず続く意味。“连续”は次から次へとつながることを表す。)、「天候が回復したために同日夕に運航を再開した。」→“同日傍晚天气恢复后,再((变)才重新)开航。”(295)(注:“再”は同じ内容の重複。“重新”は結果が同じとは限らない。ex.“我没听见,请再说一遍。”(よく聞こえないよ、もう一回言ってくれないか)“你的话有错误,请重新说一遍。”(間違ってるよ、もう一回繰り返してくれないか)⁸⁾。

以上は意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用であるが、次の誤用として、口語/文章語の違いによる誤用がある。

(Ⅱに続く。)

[注]

- 1)「転換」とは品詞の転換(ex.名詞→動詞)、受身文→非受身文、非使役文→使役文のような、二言語間で行われる操作のことを指す。「加訳」とは「ある言語Aから他の言語Bに翻訳を行う場合、言語Aにはない、ある種の語が付加される場合の翻訳」のことを、「減訳」とは「その表現が言語Aでは明示的(explicit)であるのに言語Bでは非明示的(implicit)であるのが通常の姿である場合に行われる操作」のことを指す。「加訳」「減訳」は表裏の関係にある。詳しくは拙著(2007)『日中対照表現論』(白帝社刊)を参照のこと。
- 2)藤田(2007) pp. 4-9
- 3)藤田(2007) pp. 1-19
- 4)藤田(2007) pp. 22-31
- 5)伊地智編(2002)
- 6)「日文中訳講座」No.228の講評による。
- 7)伊地智編(2002) p. 690
- 8)『週間中国語世界』No.295「日文中訳講座」の講評。他の場合も特にことわりがない限り、「日文中訳講座」の講評によっている。

[引用文献・参考文献]

- 1)藤田昌志(2007)『日中対照表現論 付:中国語を母語とする日本語学習者の誤用について』白帝社
- 2)伊地智善継編(2002)『白水社 中国語辞典』白水社
- 3)荒川清秀(1992)「日本語名詞のトロコ(空間)性—中国語との関連で—」(大河内編集(1992)所収)
- 4)大河内康憲編集(1992)『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』くろしお出版
- 5)張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』スリーエーネットワーク

- 6) 楊慶蕙編 (1993) 『現代漢語正誤辞典 (供外国人学漢語用)』北京師範大学出版社
- 7) 吳麗君等 (2002) 『日本学生漢語習得偏誤研究』中国社会科学出版社
- 8) 彭飛企画・編集 (2007) 『中日対照言語学研究論文集 中国語からみた日本語の特徴 日本語からみた中国語の特徴』和泉書院

〔追記〕

時事中国語作文と普通の中国語作文の関係について少し考えてみたい。時事中国語作文は政治、経済、文化、社会事件の報道といったものが主な内容となるが、普通の中国語作文はもっと広く、旅行や人との出会いについて書くといったように内容が広範である。拙稿では語学的な面から時事中国語作文について「転換」、「加訳」、「減訳」といった概念を使って分類・分析し、その誤用については「日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二 (または多) の関係にある場合」等のカテゴリーについて分析している (I) が、もう少し広く普通の中国語作文について考えてみたい。

以下は 監修 張一帆^{いちほ} 榎本英雄 (1999) 『中国語作文伝授』日中通信社 に収録された、日本人対象に1998年12月、『週間中国語世界』が主催した「第1回全国中国語作文コンクール」で最優秀賞に選ばれた荒川美幸氏の「北京留学中に訪れた市場の活気あふれる様子、中国人との触れ合いを生き生きと描いた」(同書p. 12)「北京农贸市场见闻」の一部(冒頭部分)である。Aが荒川美幸氏の原文、Bが【模范文】(中国のベテラン文筆家が原文に沿った内容で執筆したもの。「さまざまな形で中国人の発想と言語運用の実際が示されている」(p. 11))ものである。AとBを比べてみると、一般(自由)中国語作文について様々なことがわかって興味深い。まず、以下の作文を御覧いただきたい。

北京农贸市场见闻

A

伴随着汽车的发动机声,我骑着自行车,进入自行车王国的车流,打算一如往常去逛一逛所谓中国老百姓的“大厨房”——农贸市场。在北京留学期间,我几乎每天都去离我所在大学不远的一家集市,因为我认为那儿是了解中国的一本“活辞典”,再杰出的教材也不如它。

进入市场,那儿总有熙熙攘攘的购物的人群,高峰期拥挤得像煮饺子似的。摊子上堆满着犹如小山似的新鲜蔬菜、水果,还有活鸡和鲤鱼等。我尝过的所有的蔬菜、水果都新鲜可口,有着庄稼本身自然的味道。在每个摊子那儿,顾客与售货员进行讨价还价,样子很愉快。一方是在用手指拨弄着秤砣的售货员,另一方是用认真的目光凝视着秤星的顾客。还有许多买水果的顾客把标签——揭下来查看贴标签的地方有没有虫蛀或腐烂。我很喜欢这种在日本看不到的充满着一片生机的景象。

B 【模范文】

在轰鸣的汽车发动机声的伴送下,我骑着自行车,融入了北京浩浩荡荡的车流之中,像往常一样,去逛一逛中国老百姓的“大厨房”——农贸市场。

一进入市场,就可以看到提着菜篮子正在一个个摊位前浏览,挑选的人群。人最多的时候,就像煮饺子似的个挨个。摊位上新鲜的蔬菜,水果堆成了小山; 活鱼鲜虾活蹦乱跳; 鸡鸭禽畜叫成一片……………。

我常在这儿买蔬菜、水果,因这它们十分新鲜,好像刚从地里、树上采摘下来一样,还散发着泥土的清香。

环顾左右，只见顾客都在仔细地跳着、选着，有的人还撕下贴在水果上的标签，查看是否在标签下面藏着蛀虫。挑好东西之后开始和小贩讨价还价，便宜了几角钱也是好的。你一言我一语，谈妥了之后再过秤，一个用手指拨弄秤砣认认真真，一个眼睛盯着秤杆一丝不苟。虽说双方都在“斤斤计较”，但双方的神色是那么的愉悦。农贸市场流动着中国社会特有的一种情趣。

在北京留学期间，我几乎每天都要走一趟离我所在大学不远的农贸市场，我觉得那儿是了解中国社会的一本“活辞典”。

まず、気がつくのはAにくらべてBの【模范文】の方がゴシック体にしたような成語・成句・慣用句を多用していることである。さらにBの【模范文】の方が「対」になるような、対照的な表現が多い。たとえば“活鱼鲜虾活蹦乱跳，鸡鸭禽畜叫成一片”、“一个用手指拨弄秤砣认认真真，一个眼睛盯着秤杆一丝不苟。”といったアンダーラインを引いた箇所である。直訳すれば、「生きた魚や新鮮なエビが活発にピチピチ飛びまね、ニワトリやアヒルが一齐に泣き叫ぶ。」「一人が指で真剣にはかりの分銅を動かすと、もう一人の目も天秤に釘付けとなり少しもおろそかにせず、こちらも真剣そのものである。」となり、日本語としては大仰な感じのする文章となるが、中国語では成語・成句・慣用句の使用がその文章を書く人の教養を表し、文章をメリハリのある、しまったものにしていく。

他方、Aの文章はどうかというと非常に説明調の作文となっている。“再杰出的教材也不如它”（「どんな優れた教材も「生きた辞典」のような農貿市場にはかなわない」）はBの【模范文】では削除されている。“～，去逛一逛中国老百姓的“大厨房”——农贸市场。”で充分だと【模范文】を書いた人は考えたのであろう。Bの【模范文】の“一个用手指拨弄秤砣认认真真，一个眼睛盯着秤杆一丝不苟。”のものAの表現は“一方是在用手指拨弄着秤砣的售货员，另一方是用认真的目光凝视着秤星的顾客。”で、説明的で平板な表現となっている。中国語で文章を書くということは“一丝不苟”のような成語・成句を使用して教養があることを見せつけることなのかもしれない。「話すように書く」ことで作文として成り立つ日本語とは根本的に異なるようである。

またAの作文にはBの【模范文】にある“轰鸣”、“伴送”、“融入”といった書き言葉が使用されていないから幼稚な感じがする。これは日本の中国語作文教育がその段階の作文で必要な書き言葉の語彙を明晰に教えていないことに帰因する。“轰鸣”、“伴送”、“融入”など、中国の文章や小説を読めば普通に出てくる言葉であるが、日本人学習者には使用が難しい。今後の中国語教育は、必須語彙について話し言葉と書き言葉の相違を初級段階から中、上級段階までシステムティックに教えていく必要があるであろう。

以上、述べたようなことは普通の中国語作文にいえることであるが、同様に時事中国語作文においても同様に「必須語彙について」「初級段階から中、上級段階までシステムティックに教えていく必要がある」であろう。まず、時事中国語作文の必須語彙の選定から初級、中級、上級別に行う必要があるであろう。将来、時事中国語作文を授業として行うのならそれが最優先課題である。

【付記】本稿は中国語教育学会第7回全国大会（2009年6月6日、7日 於愛知大学）で口答発表した内容をもとに作成したものである。